【自分のキャリア】

自分の今後5-10年後のキャリア開発を設定する機会が有って、

（老害とか働かないおじさん問題が取り沙汰される）厳しい世情の中で生き残るためには、

まず自分自身の働き方を改革する必要が有ると危機感を覚えた。

まず、これまでのキャリアの中で何に没頭している時「最も楽しかったか」を思い浮かべて、

自分の専門は発電設備の性能管理で、機器の劣化による熱効率低下と修理費用の損益分岐点を膨大なデータから迅速かつ正確に計算するため、関数電卓のBasicとかExcelマクロのVBAを活用してきたベースが有ったので、

その延長線上でRPAの独学を始め、

当時の上司がIT部門へ推薦してくれたのが転機になった。

【RPA推進体制】

西日本支社の取り組みとして、現場のKaizen活動の中からRPAを活用した自動化を推進していた。

今は東西支社かかわらず開発サポートしている。

（幸田が一人で）24時間UR実行できるシステム環境とユーザーが相談できるコミュニティを構築してくれたので、それを使いこなせる人財を育成するのが歓びになっている。

コロナ禍でテレワーク環境の整備が加速され、現在ほとんど在宅勤務だが、

チャットで気軽にコミュニケーションできるようになっているので、

役職も意識せず、面識の無い他部門の社員からの相談の方が多い。

2021年度はコミュニティ参加者が約200名に増え約1万時間の削減を達成したが、自力で開発できるユーザーは約10名と少ないため、今後は開発者のペースに合わせた個別サポートに注力する。

【DPPでのRPA活用】

たとえば、デジタル発電所プロジェクトで燃料分析証明書をデジタル化したいとのニーズがチャットに投稿されていたので、別件で開発したUiPathのAI-OCRロボを即レスしたら、とんとん拍子で、そのプロジェクトでも流用できるか検討することとなった。

ボイラーに投入する燃料発熱量と発電した電力量の割合から熱効率を算出しているが、燃料成分を手作業で転記している。

そのプロジェクトでは、ＤＸ人財を育成するため、

電子メールで受信する分析証明書ファイルから必要なデータのみ抽出し別システムに入力する（定型的で単純な）作業の自動化を、現場の若手社員が主導で開発できるよう意識改革も含めサポートする構想である。

人間は、自動化によって創出できた時間をデータ分析など付加価値の高い業務に活用する。

火力発電所の運営業務をデジタル技術によって変革する「デジタル発電所」ビジョンを策定した。

「膨大で煩雑な（定型的で単純な）作業」から「データに基づき創意工夫できる仕事」へシフトする。

「記録のデジタル化」を進め、「業務の非効率」を解消する。

発電所における業務を「より付加価値の高い業務」へシフトすることで、

さらなる業務の高度化を目指して取り組む。